

石川県議会派遣  
(タイ・香港訪問)  
報 告 書

平成25年10月  
石川県議会

タイ・香港訪問 日程

日 時	時 間	日 程	備 考
10月27日 (日)	9:45	小松空港1F国際線カウンター前集合	
	10:30	結団式 小松空港2F「小松」	
	12:00	小松空港発(KE776)	
	14:00	仁川空港着	
	17:15	仁川空港発(KE651)	
	21:05	バンコク着	時差：-2時間
		ホテルへ移動	
		【バンコク泊】	スイソテルナイラートパーク
10月28日 (月)	9:00	ホテル発	
	10:00	日本政府観光局バンコク事務所訪問	
	13:30	ビジネス・エア訪問	
	15:30	日本大使館訪問	
	18:30	石川県人会との交流会	
			【バンコク泊】
10月29日 (火)	8:30	ホテル発	
	9:00	アジア・アトランティック航空訪問	
	10:00	HISバンコク支店訪問	
	11:00	現地進出企業(ハチバン)店舗視察	
	13:30	タイ国政府観光庁訪問	
	14:45	タイ旅行業協会訪問	
			【バンコク泊】
10月30日 (水)	6:30	ホテル発	
	9:25	バンコク発(CX708)	
	13:05	香港着	時差：-1時間
	16:00	EGLツアーズ訪問	
			【香港泊】
10月31日 (木)	9:00	ホテル発	
	10:00	キャセイ・パシフィック航空訪問	
	14:30	香港航空訪問	
	18:00	香港発(KE602)	
	22:30	仁川空港着	時差：±0時間
		【仁川泊】	ハイアットリージェンシー仁川
11月1日 (金)	7:15	ホテル発	
	9:10	仁川空港発(KE775)	
	10:50	小松空港着	

KE:大韓航空 CX:キャセイ・パシフィック航空

## 石川県議会議員派遣（タイ・香港訪問）名簿

紐 野 義 昭 （ 自 民 党 ）

北 村 繁 盛 （ 県政石川 ）

米 田 昭 夫 （ 自 民 党 ）

吉 田 修 （ 県政石川 ）

新 谷 博 範 （ 改 新 ）

大 口 英 夫 （ 自 民 党 ）

（随行職員 山岸 克夫 議会事務局議事課議事専門員）

石川県議会派遣  
タイ・香港訪問の概要

1 目 的

小松空港の更なる国際化に向けた取り組みを進めるため、タイ及び香港の航空会社、旅行会社等を訪問し、小松とタイ・香港間の就航促進に向けた要望及び調査活動を行う。

2 訪問のあらまし

(1) 派遣期間

平成25年10月27日(日)～11月1日(金) 5泊6日

(2) 派遣議員数

6名

〔ほかに、小松空港国際化推進石川県議会議員連盟として  
福村団長以下6名〕

(3) 訪問先

〈タイ〉

日本政府観光局バンコク事務所、ビジネス・エア、日本大使館、アジア・アトランティック航空、現地進出企業(ハチバン)、タイ国政府観光庁、タイ旅行業協会など

〈香港〉

EGLツアーズ、キャセイ・パシフィック航空、香港航空

タイ・香港訪問団 名簿

団 長	石川県議会議員（小松空港国際化推進石川県議会議員連盟会長）	ふくむら あきら 福村 章
副団長	石川県議会議員	ひもの よしあき 紐野 義昭
副団長	石川県議会議員	きたむら しげもり 北村 繁盛
団 員	石川県議会議員	よねだ あきお 米田 昭夫
団 員	石川県議会議員	よしだ おさむ 吉田 修
団 員	石川県議会議員	しんたに ひろのり 新谷 博範
団 員	石川県議会議員	ぜんだ よしひこ 善田 善彦
団 員	小松市議会議員	みやかわ よしお 宮川 吉男
団 員	小松市議会議員	うめだ としかず 梅田 利和
団 員	小松商工会議所副会頭	えぐち すけいち 江口 介一
団 員	小松商工会議所中小企業相談所長	ゆの としひこ 油野 俊彦
秘書長	石川県議会議員	おおぐち ひでお 大口 英夫
事務局	石川県企画振興部次長	しょうじ かおる 庄司 郁
事務局	石川県企画振興部空港企画課長	うすい はるき 臼井 晴基（タイまで）
事務局	石川県観光戦略推進部国際観光課長	さいとう ひろし 斎藤 博
事務局	石川県企画振興部空港企画課主任企画員	なかえだ ひろし 中江田 浩士
事務局	石川県観光戦略推進部国際観光課専門員	うちだ きよし 内田 潔（タイ現地合流）
事務局	石川県議会事務局議事課議事専門員	やまぎし かつお 山岸 克夫

計 18名

※ 今回、議会議員派遣としての6名（      下線）と小松空港国際化推進石川県議会議員連盟からの6名で訪問団を編成

平成25年10月27日(日)

結団式（北陸エアターミナルビル(株) 2F 「小松」の間）

出発に際し、小松空港国際化推進石川県議会連盟会長であり、今回の団長を務める福村県議から、タイ・香港の航空会社、旅行会社等を訪問し、小松・タイ間の就航促進を図るなどの挨拶を行った。



熱意ある行動を示してほしいと挨拶する福村団長

平成25年10月28日(月)

1 日本政府観光局(JNTO)バンコク事務所

(時間) 10:00～11:00

(相手方) 伊東和宏 所長

奥津 聡 次長

福田和弘 国際交流基金バンコク日本文化センター所長

(内容)

◎福村団長

- ・直行便がないにも関わらず、タイから石川県への訪問者が増えている。東南アジアの中心であるタイとの定期便を誘致したく、今回、複数の航空会社を訪問する。双方向チャーターを複数回実施し、その後、定期チャーター、定期便へと繋げていきたい。

◎福田国際交流基金バンコク日本文化センター所長

- ・国際交流基金は、世界22カ所に事務所を持つ。仕事は、文化交流が大半を占め、タイ人への日本語教育を行っている。タイ人が日本を知りたい時にこのセンターを訪れる。観光情報の提供は、日本政府観光局が担当している。

◎伊東所長

- ・タイからの訪日数は2012年が史上最多だったが、今年9月までで昨年度の実績を超えた。目標を上方修正し40万人としている。増加の理由は、査証免除とバーツ高。滞在費、土産代が昨年比で2～3割低下した。
- ・最初の訪日ではゴールドルートを訪れるが、2回目以降は日本各地を訪問する。タイ国際航空が日本各地に直行便を運航していることが大きい。

◎奥津次長

- ・旅行形態については、家族での来日が多い。
- ・訪日者数については、2009年はリーマン・ショック、2011年は震災とタイの洪水で減少したものの、それ以外の年は増加傾向を示している。
- ・訪日時期については、3・4・10月が多い。タイの学校は二学期制で、3・4月と10月が休み。これらの時期は、日本の国内旅行の需要期と外れる。
- ・個人旅行については、JRパスを活用した電車利用が多い。
- ・温泉については、リピーターは抵抗がなくなっているが、ビギナーは知人や身内と一緒に入浴することが恥ずかしく、露天風呂付の個室が好まれている。

◎伊東所長

- ・旅行者はWi-Fi環境を欲しがらる。日本の宿泊施設の中には、ロビーに限って利用できたり、室内で利用するためには事前登録が必要であったりすることが多いが、事前登録なしに室内で利用できることを希望している。
- ・タイ人は、タイ語表記でなくても英語表記があれば間に合う。日本人より英語

能力は高いが、団体旅行者は、英語ガイドでは詳細な理解まではできない。

【懇談】

◎紐野県議（副団長）

・日本への旅行商品は4～5泊で4～5万バーツか。

◎伊東所長

・4万～5万バーツ弱ぐらい。大体、日本円で3倍だから15万円以下ぐらい。  
4泊5日とか、夜行便を使って3泊5日とか。1週間弱の方が多。

◎北村県議（副団長）

・日本に旅行される方の階層は。

◎伊東所長

・富裕層は月収6万バーツ以上だが、月収3～5万バーツの中間層でも、ローンによる旅行商品の購入が可能である。金利は旅行会社が負担する。

◎北村県議（副団長）

・一般の方はシャワー利用か。

◎奥津次長

・ホテルに宿泊する際は、シャワー利用の人が多。

◎福村団長

・訪日に利用する航空会社は、タイ国際航空だけか。

◎奥津次長

・タイの航空会社としては、他にバンコク・エアウェイズがあるが、日本には就航してしない。日本への経路便だと、キャセイ・パシフィック航空、大韓航空、中華航空があるが、タイ人は直行便を好む。料金が半額でも、乗継時間がもったいないとのことである。

◎福村団長

・タイ人を石川に招くためにはどうすれば良。

◎伊東所長

・旅行会社の招聘と雑誌広報が有効である。

◎福村団長

・伊勢丹でのPRは。

◎伊東所長

・物産展との組み合わせが有効。食も人気がある。物産展を機に、訪日し、本場を味わってもらうことにも繋がるのではないかと考える。

◎善田議員

・1年半後に北陸新幹線が金沢まで開業するが、新幹線はタイ人に魅力的か。

◎伊東所長

・魅力的である。



◎善田議員

・「8番らーめん」は、石川県が発祥だということをご存じか。

◎伊東所長

・知らなかった。

◎米田議員

・タイから沖縄へのチャーターがあると聞いたが、なぜタイ人が沖縄に行くのか。

◎伊東所長

・健康食が食べられるというイメージがあるようだ。

◎北村県議（副団長）

・新しい旅行商品として、タイから日本への医療ツーリズムは成立するか。

◎伊東所長

・タイの医療システムは優れており、逆に日本人がタイに来るのではないか。



バンコク事務所内の情報提供ブースを視察



タイ語で作成された  
石川県観光パンフレット

ブース内の日本観光パンフレット置き場。タイ語のパンフレットは稀少で、タイ人来訪者は持ち帰りやすいという。



福田文化センター所長からの挨拶



伊東所長からの説明

## 2 ビジネス・エア

(時 間) 13:30～14:30

(相手方) アヌーチャ・ティワリ 最高経営責任者  
スッチャリー・プーンゲオ 副会長  
ダムロン・タナラット 最高経営責任者秘書

(内 容)

### ◎福村団長

- ・兼六園など県内を訪れるタイ人の観光客が急増しており、直航便があれば交流はより盛んになる。チャーター便で実績を積んで、将来の定期便に繋げたい。

### ◎ティワリ最高経営責任者

- ・ビジネス・エアは100%タイ資本である。設立4年目の若い会社だが、スタッフは20年以上の航空会社勤務経験のあるベテランばかりである。
- ・現在はチャーター運航のみで、仁川ーバンコク間をデイリー、仁川ープーケット間を週6便運航している。
- ・東日本大震災時にも、日本とバンコクで双方向チャーターを運航した。アジア・アトランティック航空が設立した時に、サポートとして関空ーバンコク間を11便運航した。
- ・タイと日本とは友好関係が深い。日本へのチャーターを再開したいが、日本側の旅行会社と連携しなければならない。時間はかかるかも知れないが、協力すれば小松空港へのチャーターは可能と考える。

### 【懇談】

### ◎福村団長

- ・平成19年度には双方向チャーターを2回実施した。来年は小松ーバンコクに数便チャーターを飛ばしたいと思うが、今回も日本からのアウトバウンドができなければ実施しない。県を挙げての事業なので協力すればできると思う。条件を整えば実施したいと思うが、条件を聞かせていただきたい。

### ◎ティワリ最高経営責任者

- ・石川県側の窓口となる人を教えていただき、日程等の条件を詰めていきたい。

### ◎庄司次長

- ・日本側の旅行代理店を紹介する。

### ◎ティワリ最高経営責任者

- ・日本の旅行代理店とのコーディネートは可能か。

### ◎庄司次長

- ・可能。

◎ティワリ最高経営責任者

- ・来年度と話されたが時期は。季節でも良いが。また地元航空局との調整も必要だが協力いただけるか。

◎庄司次長

- ・日本の旅行代理店の集客もあるので、時期は調整したい。

◎福村団長

- ・3～4月と10月はタイ発が多いと聞く。

◎プーンゲオ副会長

- ・タイからの集客については子会社の旅行代理店を持っているので大丈夫。少なくとも2便は実施したい。石川県の観光情報、観光コース、ランドオペレーター2～3社を紹介して欲しい。

◎福村団長

- ・共に頑張っていこう。来年の実施に向け、石川に視察に来ていただきたい。



大口秘書長による進行



ティワリ最高責任者（右）とプーンゲオ副会長（右から2人目）



懇談終了後、プーンゲオ副会長を囲んで

### 3 タイ王国日本国大使館

(時 間) 15:30～16:00

(相手方) 岩間公典 経済部公使  
濱本健司 一等書記官

(内 容)

#### ◎福村団長

- ・日本のために尽力いただき感謝申し上げる。石川県へは東南アジアからの観光客が多い。タイからの兼六園の入園者数は2011年から2012年にかけては2.7倍、2012年から2013年には1.8倍に増えた。
- ・航空会社と来年に向けた双方向チャーターについて話した。その際にはタイで観光展や物産展を実施したいと考えており協力をお願いしたい。

#### ◎岩間公使

- ・大使館も情報を共有し応援していきたい。東南アジアから日本への誘客を促進することが日本政府の方針であり、7月から短期ビザを免除した。
- ・いろいろな自治体の方から、タイ人の観光客が増え、観光地での振舞も良いとの評判を聞く。大使館としては、経済交流もさることながら、人の交流を増やしていきたい。観光面ではJNTOとも協力している。
- ・タイ人は、雪や日本の典型的風景など、タイにないものへの関心が高い。北海道には昨年10月末から週3便で運航していたが、今秋からデイリー。冬には仙台に就航する。これはタイ人の雪への憧れを意味する。北海道では水産物が買われる。蟹も人気。

#### 【懇談】

#### ◎新谷県議

- ・タイへの訪問者はどこの国が多いか。

#### ◎岩間公使

- ・中国、マレーシア、ロシア、日本の順に多い。日本からはビジネスマンが多い。タイの日本商工会議所は1,500社以上が加盟し、中国に次いで多い。

#### ◎米田県議

- ・大使館として、石川県をPRすることは可能か。

#### ◎岩間公使

- ・特定の自治体のPRは難しいものの、物産展、観光案内のイベント時のレセプションへの助言や、大使によるスピーチなどで協力ができる。

#### ◎北村県議（副団長）

- ・タイの治安は如何か。

#### ◎岩間公使

- ・治安は安定している。政権党の力が強い。洪水も2年前と比べて軽傷でありバンコクに水が迫るといった状態ではない。



#### 4 タイ王国石川県人会との交流会

(時 間) 18:30~20:30

(内 容) 平成25年8月に設立されたタイ王国石川県人会と交流会を開催し、今後の日タイの友好関係の強化と、小松ータイ便の開設に向けた連携について意見を交換した。



タイ王国石川県人会設立への祝辞を述べる福村団長



出村県人会長から設立経緯とタイの生活事情について紹介



乾杯挨拶する紐野副団長



中締め挨拶する北村副団長

平成25年10月29日(火)

1 アジア・アトランティック航空 及び H I S バンコク支店視察

(時 間) 9 : 0 0 ~ 1 0 : 3 0

(相手方) グラハム・ロックウッド 執行役員 (安全及び品質管理担当)  
弘農 功 中国・日本営業チーム・マネージャー  
大門 徹 社長補佐  
中村謙志 H. I. S. ツアーズ統括支店長

(内 容)

◎ロックウッド執行役員

- ・当社はB767、B767-300ERの2機を所有しており、成田空港に毎日運航しており、時々、関西空港にも運航している。
- ・小松空港の着陸料の安さは魅力的である。グランドハンドリング料金に関心がある。スイスポートは小松空港に入っているか。

◎庄司次長

- ・入っていない。

◎ロックウッド執行役員

- ・定期便の際は、できれば貨物も運びたい。B767-300ERは270席があり、ビジネス席もあるので、ビジネス需要も取り込めることができれば。
- ・雪は魅力的で大勢のタイ人が行くだろう。息子は、毎年日本にスキーに行っている。
- ・2015年にアセアン経済共同体ができれば、域内はオープンスカイとなる。アセアン域内で客をまとめて、東南アジアから日本にチャーターを飛ばすことができる。H I S が販売することもできるし、我々が販売することもできる。

◎福村団長

- ・2015年ではなく、来年の話としてチャーターを複数便実施したく、協力をお願いしたい。

◎ロックウッド執行役員

- ・真剣に検討する。前向きに取り組んでいきたい。

◎中村支店長

- ・タイからは何時でも日本に飛ばすことができる。H I S は広島や北海道にタイ国際航空を使用してチャーターを飛ばしたが、B767の286席を埋めた。タイの訪日旅行熱は高い。問題は日本での集客である。
- ・チャーター機材はアジア・アトランティック航空以外にもある。

◎善田県議

- ・石川では修学旅行先を、中国や韓国から、東南アジアに移動する動きがある。

◎新谷県議

- ・インセンティブは必要か。

◎中村支店長

- ・インセンティブがないと価格的に商品にならない県もあるが、金沢は人気のある観光地である。



福村団長からの挨拶



ロックウッド執行役員(中央左)、中村支店長(中央右)



この後、中村謙志H. I. S. ツアーズ統括支店長に案内いただき、H I Sバンコク支店を視察した。





## 2 現地進出企業（ハチバン）店舗視察

（時間） 11:00～11:30

（相手方） 清治 洋 ハチバントレーディング（タイランド）社長

（内容）

◎福村団長

- ・ 8 番らーめんは、石川生まれであることをPRして欲しい。

◎清治社長

- ・ 海外は、タイ、香港、大連で店舗を展開している。香港は5店舗、大連は3店舗。タイでは、あしかけ21年で102店舗となった。うち65店舗がバンコク及び近郊に立地し、残る37店舗が地方に立地。北は800km離れたチェンマイ、南は1,000km離れたプーケット。また東部や東北地域にも展開している。
- ・ 日本はロードサイドに店舗を展開しているが、バンコクではショッピング・モールの中で展開している。
- ・ 当店舗の隣に吉野家、大戸屋が出店しているように、ここ数年で日本のサービス産業がバンコクに進出してきている。タイ駐在の日本人は5万人。これまでは製造業従事者だけだったが、ここ数年でサービス業従事者が増加。背景にはタイ一般国民の所得増加がある。東南アジア全体も同様の傾向である。



清治社長からの説明



15 店内レジ横に貼られた兼六園ポスター



### 3 タイ国政府観光庁

(時 間) 13:30～14:15

(相手方) ポーンサトーン・ゲーッサムリ アジア・南太平洋地区担当副総裁  
スリスダ・ワナピニョサク 東アジア支局長  
鹿野健太郎 日本市場アドバイザー

(内 容)

#### ◎福村団長

- ・石川県は日本列島の中央に位置し、主要都市まで2時間半である。石川とタイとの交流は盛んであり、タイから石川への訪問者数は、去年は対前年2.7倍、今年是对前年1.8倍に増加。日本からタイへの訪問も増加している。これを機に交流をより盛んにしたく、そのための小松―タイ便の就航を目指し、タイを訪問した。
- ・小松空港は、200万人の年間利用者がいる日本海側最大の空港である。国内は6路線、国際は3路線を有している。また貨物便もある。
- ・石川は、観光資源が豊かで、金箔等の伝統工芸の街である。
- ・石川はタイの人が好きで、20年前に友好協会を設立し、今年20周年の式典を行った。特にナコンシータマラートとは交流があり、6年前に訪問した際は盆踊りをした。
- ・企業もタイに進出しており、石川からは27社。8番らーめんやコマツが石川の企業。ビジネスと観光で交流していきたい。8月に、タイに石川県人会が設立され、これから活動する。
- ・来年は複数便の往復チャーターを、その次にプログラム・チャーター、そして定期便と繋げたい。昨日、今日と航空会社を訪問し、チャーター便について話をしてきた。その際は、タイで観光・物産フェアをしたいので、支援・協力をお願いしたい。

#### ◎庄司次長

- ・石川県には兼六園があり、近隣には高山・白川郷・黒部立山といった観光地がある。また主要都市まで2時間半であり、観光やビジネスの拠点として活用できるものとする。
- ・小松空港は国際旅客の増加を受け、国際線の受入施設の増強を努めている。駐車場や免税売店、旅客搭乗橋の整備を進めている。
- ・タイからの兼六園の入場者数、石川や北陸からのタイへの出国者数、国際線乗降客数が増加しており、数値的にも石川とタイとの交流の拡大が認められる。直航便が増えれば交流もさらに拡大する。

#### ◎ゲーッサムリ副総裁

- ・1～9月に日本から114万人が来タイしており、この9カ月間で昨年比10%以上の増。残り3カ月で150万人を超え過去最高となる見込み。

- ・日本人観光客は質が高く、タイは日本人観光客を歓迎している。タイも質の高い観光地でありたいと考えている。
- ・日本の女性には健康・美容・ショッピング、年配者にはロングステイ（長期滞在）、学生などの若者には文化交流を期待している。
- ・タイ国政府観光庁は、本来は日本観光客をタイに受け入れるための仕事を行う機関ではあるが、タイから日本への送客にも協力し、双方向での観光促進に取り組んでいきたい。
- ・また昨年は26万人がタイから日本を訪問した。これは対前年比で79.8%の伸びを示している。さらにこの伸びは止まらず、今年1月から9月の段階でも昨年比で既に59%以上の伸びを示している。今年7月から日本政府がビザを免除し、タイから日本への訪問が増えている。
- ・我々も小松空港について勉強しており、直航便の必要性を感じている。チャーターから始めて、定期便という考え方は我々も同じである。
- ・タイ政府観光庁は、日本では東京事務所を中心に活動しており、2年に1度セミナーを開催している。またファム・トリップを実施している。MRO旅フェスタというトレード・ショーにも参加した。
- ・ナコンシータマラートの式典には1996年に当時のチャルブン副総裁が出席した。盆踊りを披露されたとのことだが、同地域にはマノラーという伝統芸能があり、今度石川で披露されては。

◎福村団長

- ・来年は双方向チャーターで石川にお越し頂きたい。

◎ゲーッサムリ副総裁

- ・機会があれば何時か訪問したいと思う。日本には何度も訪問しており、日本のファンと言ってよい。



ゲーッサムリ副総裁との集合写真

#### 4 タイ旅行業協会

(時 間) 14:45～16:15

(相手方)	ステイボン・プアンピポップ	会長
	アネーク・シリシーワシャット	前会長
	ガモラネート・カナヌワット	事務局長
	ナタヴット・ロカシリワット	副会長（発券担当）
	シャムノン・インターロット	副会長
	ソムシャイ・シーラタナプラパス	副会長（海外旅行担当）
	ウディシャイ・ウォーラシン	委員
	ヴィブーン・カモントー	委員
	花巻順一郎	タイシン・エクスプレス社課長

以下10名

(内 容)

##### ◎福村団長

- ・小松空港は、日本の中央に位置し、年間200万人以上が乗降する日本海側の拠点空港である。国内線は6路線を有し、羽田便は1日12便である。国際線は、ソウル、上海、台北の3路線を有している。また、日本の地方空港では珍しくルクセンブルグのカーゴルックス社の貨物便が運航している。
- ・石川県は、日本でも有数の観光地である。海の幸、山の幸に恵まれ、魚や蟹を始め食べ物が美味しい。どなたにお越し頂いても、石川県は食べ物が美味しいと言われる。また、日本一の温泉旅館、兼六園という素晴らしい日本庭園、富士山・立山と並ぶ日本三山の一つの白山が石川県にある。雪、桜、紅葉も綺麗。歴史と伝統のある街で、様々な祭りがある。京都と並んで伝統工芸が盛んで、九谷焼や輪島塗の作家がいる。
- ・最近タイや東南アジアから石川県への訪問者が増えている。去年は対前年比2.7倍。今年1～9月は対前年比1.8倍の訪問者が来ている。
- ・北陸エリアからのタイへの訪問者も毎年増えている。最近では、タイへの企業進出も非常に盛んで、石川県からは27社が進出している。その中には、8番らーめんや、建設機械で世界一番のコマツがあり、これらの企業は石川県の生まれである。北陸からは83社がタイへ進出している。
- ・石川県民はタイが好きで、県内に石川県タイ友好協会があり、今年設立20周年を迎えたところである。特に、ナコンシータマラートと石川県とは深い繋がりがあり、私も6年程前に訪問し、約千人の市民の方々と盆踊りをした。そのようなこともあり、タイから石川県への留学生も多く、帰国した留学生とタイに進出されている石川県の企業の方が力を合せ、8月8日にタイ石川県人会を設立された。
- ・私共は石川とタイとの交流を更に盛んにしたく、そのためには小松ーバンコク

間の定期便を就航されることが最も有効な手段と思い、今般、航空会社や観光庁、貴協会を訪問しているところである。平成19年の訪タイ後は、東日本大震災やタイでの洪水で一時気運が低下したが、今回、航空会社を回り双方向チャーターの実施を約束した。協会の方々には、一度揃って石川へ来県頂き、今後の協力をお願いしたい。

◎庄司次長

- ・小松空港のポイントは2点あり、1つは2,700mの滑走路、もう1つは就航率も極めて高い安定した路線。施設面でも改善した。直航便ができれば、観光、ビジネス面での交流が深まると考える。

◎ファンピポップ会長

- ・タイでは、北陸ルートは人気。2010年から力を入れているが、今後も続けていきたい。この10年間の傾向では、1位はゴールドルートで、2位が北陸ルート。今後も訪日2回目のルートとして人気は続くのではないかと。小松空港に直航便がないのは、多分、セントレア、関空、羽田に近過ぎるから。これからは当協会及び加盟旅行会社と石川県側と連携し、チャーターから始め、定期便開設に向けて協力していきたい。
- ・タイから日本へは昨年は26万人、今年は9月末現在で既に40万人で過去最高、年末には45万人から50万人近くになるのではないかと。そのうち約10～15%は石川を含む北陸を訪問したのではないかと。この5～7.5万人は、現在は名古屋・大阪・東京経由だが、将来的に小松直航便ができれば、マーケットは拡大していくのではないかと。
- ・協会の代表として、これからは親密に石川県と協力し、タイの観光客を石川県に送客することを約束する。最後に、旅行業協会元会長で、北陸ルートの開発者から一言ご挨拶を頂きたいと思う。

◎シリシーワシャット前会長

- ・20数年前に初めて北陸ルートを回ったが、その時は岐阜県の招待で、当協会のメンバー20～30名でファミ・トリップを行った。その時は、高山やアルペンルートを回ったが、小松空港や石川県の観光地を視察しなかったことが残念。ファミ・トリップ後に数社で協力して、このルートを売り始めたが、これは成功し現在ではタイで良く知られた旅行商品となった。アルペンルートへは、雪の大谷の時期だけではなく、秋の紅葉など年中ツアーが行くようになった。
- ・石川県には良い観光地と加賀屋という日本一の旅館があることを聞いている。このような興味深い観光地をタイでもっと宣伝していけば、タイの観光客が石川県を訪問するだろう。
- ・協会の力で、北海道ルートは、当初チャーター便しかなかったが、その便数が増え、定期便が週3便で開設され、週5便となり、現在はデイリーとなった。

仙台も協会の力でチャーターを飛ばし、12月4日から週3便程度で定期便が開設される。

- ・現在、開発中の新ルートとして、新潟行きのチャーター便が今年末に1本と来年2月に飛ばす。新潟のチャーターでは、タイ人客は新潟到着後、その半分が大型バス4台に分乗し富山・金沢を訪れる。残り2台は仙台に、もう2台は東京を訪れる。新潟は数年前から開発しているのであるが、年2～3回チャーター便を飛ばしている。
- ・小松空港についても、日本側の旅行会社やランドオペレーターと力を合わせて、双方向チャーターをしたいと思う。小松空港も、その周辺には富山、立山、福井と色々組み合わせることが可能なので、多分これから開発される新しいルートになると思う。

◎ロカシリワット副会長（発券担当）

- ・幾つかの県は一回来て終わり。継続的にプロモーションして欲しい。また、日本はインターネット環境が悪い。室内でのフリー・インターネットが普通である。

◎インターロット副会長

- ・先ずチャーターから始めるべき。現在の定期便利用だと、2～3日しか北陸に滞在できない。

◎ウォーラシン委員

- ・小松空港は、どの機材が入れるのか。

◎庄司次長

- ・B767、A330、B747も可能。

◎ウォーラシン委員

- ・国際化の方針として、ハード面ではなく、ソフト面の充実、具体には人材の教育をお願いしたい。他県で入国審査に2時間かかったケースがある。

◎ヴィブーン・カモントー委員

- ・タイ人は、東京、大阪は飽きている。

◎花巻課長

- ・2点お話したい。1つはチャーターだが、タイ側は全く問題なく集められる。問題は日本側。札幌も仙台も花巻も新潟も全部したが、一番の問題は日本側である。静岡でも話があったが、日本側が集めきれない。旅行会社がリスクを負いたくない。それが多分、今の日本側の現状ではないかと思う。これを皆さんで何らかの方法でして頂ければ。
- ・もう1つは定期便だが、現状を申し上げると、結局、基本的には、名古屋から入るか、関西空港から入るしか、石川県に行く方法はないと思う。名古屋の方に聞いたら、タイ人が名古屋を訪れる比率が他の国の方よりも断然多い。企業もあると思うが、もう一つは、名古屋に日泰寺という寺があり、タイ人は必ず

訪問する。その際に高山を訪れるので、もう一步足を延ばせば、石川まで行けると思う。そのルートを皆さんで教えて頂ければ、多分定期便での販売も容易ではないのかと思う。

#### ◎ファンピポップ会長

- ・最後に一点申し上げたい。昨年度タイから26万人が訪日したが、そのうち九州は6～7千人しかいなかった。ところが九州からの訪問団が当協会を訪問した後は、継続的にタイでプロモーションを行うようになり、今年度の九州への訪問者は3倍に増えた。

#### ◎福村団長

- ・長時間にわたり、皆さんからご提言や忠告を頂き感謝申し上げます。チャーター便の実施に関して、日本からのアウトバウンドが非常に大変なことは理解している。以前2便実施した際は満席だった。
- ・石川県では、例えば1,300年続いている那谷寺とか、能登の素晴らしい海岸線とか、金沢城跡とか、見所は石川県だけでもいっぱいある。最近、欧米では、産業観光と言って、いわゆる工場やら、モノづくりを見に来る方が多いようである。石川県は日本の中でもモノづくりの街であって、先程申し上げたコマツは、世界一の建設機械を作っている。他にも、日本一のバスを製造している日野自動車。素晴らしい繊維を作る東レと言う会社がある。そのような会社が幾つもある。そういう所を見て頂く興味のある方もいらっしゃる。是非そのようなことも含め、これから検討して頂きたいと思っている。
- ・私が冒頭で申し上げ、また皆様からお話しがあったように、私がここで話すよりも、現地を見て頂くことが一番大事である。そういう意味で、近い内に招待状を出すので、是非皆さんに来て頂きたい。



福村団長からの挨拶



ファンピポップ会長（中央）

平成25年10月30日(水)

## 1 EGL ツアーズ

(時 間) 16:00～17:00

(相手方) 袁 文英 社長 (董事総経理)

末廣啓一 日本地区スーパーバイザー

濱木由美 アシスタント・マネージャー

(内 容)

### ◎福村団長

- ・27日からタイを訪問し、今日香港に入った。タイなど東南アジアからの訪日旅行者が増えていることからタイを訪問し、双方向チャーターの話をしてきた。
- ・袁社長は確か8県の大使になられているとお聞きしている。石川県の大使になっていないことがおかしい。

### ◎庄司次長

- ・小松空港の最近の動きとしては、今夏に国際線の施設の充実を行っている。具体的には、国際線専用の第2駐車場を造り、駐車スペースを2倍に拡充したところである。ターミナルの方も、免税売店や出国待合室を充実させ、更には搭乗橋の増設など、国際線対応をより強化する取組を進めているところである。これまで定期便が到着すると1基しかない搭乗橋が塞がったが、今後は2基となるので、チャーター便や定期便をより受け入れやすくなる。
- ・小松空港国際線は伸びてきており、昨年度は過去最高を記録したが、今年度は更にそれを上回る年率117%という高い伸び率で推移している。また、香港から金沢の兼六園を始めとする北陸の代表的な観光地への入込客数は急増しているところであり、観光地としての潜在性はあるのかと思う。北陸から香港への企業進出数も徐々に増えているので、今後も石川と香港との交流は拡大する余地があるのではないかと思う。

### ◎袁社長

- ・今年2月から為替が改善し、訪日は絶好調で、国際線さえあれば問題ない。来月の日本行の旅行商品は完売。
- ・石川県は、立山黒部の時期は圧倒的多数のお客様が訪問するが、我々はその時期以外にも石川に送客する。
- ・石川県、金沢・兼六園、能登半島の知名度が上がっており感謝する。能登半島をコースの名前に入れると格別に売れやすくなる。皆さんが築き上げた素晴らしい財産である。
- ・今月、遅くとも12月中旬までに、スタッフ2名をグルメツアーの研修に石川県へ行かせる。石川県の美味しい食べ物を香港の富裕層にする。

- ・現在、香港の富裕層は訪日し、ヘルシーな食事を求める傾向にある。昔、中国や香港では、熊の手や猿の脳味噌が出る満漢全席が知られていたが、現在はヘルシーで健康的な食事が求められている。
- ・香港の人は自慢話が好きである。石川県のグルメツアーも富裕層の自慢話となるので、どんどん開発して、石川県の美味しい果物、農産物を紹介していきたい。これらは観光に繋がる。今夏、訪日観光客は皆、岡山の白桃や、北海道の夕張メロンなどの日本の有名な果物を段ボール単位で買ってきた。
- ・また、今夏に香港ヤフーが日本の果物を販売した。宮崎のマンゴーは日本円換算で1個1万円にて販売。タイのマンゴーは香港で買うと1個100円。最初ヤフーは心配していたが、蓋を開けてみると売れた。それだけメイド・イン・ジャパン（日本製）が評価されており、この看板を守ることが大事。
- ・EGLで中部空港からレンタカーを借りる商品を販売し、石川県に送客させて頂いている。香港の人にはレンタカーも歓迎される。

#### 【懇談】

##### ◎袁社長

- ・7・8月に米子、徳島、長崎、宮崎、鹿児島など日本の地方空港にチャーターを飛ばした。

##### ◎福村団長

- ・グルメツアーでは、金沢のみならず、能登、加賀にもグルメがある。ルートについて何時でも相談に乗る。

##### ◎袁社長

- ・3泊4日の研修に2人のスタッフが参加する。

##### ◎庄司次長

- ・LCCは機材が狭いが、3時間から3時間半のフライトを我慢できるのか。

##### ◎袁社長

- ・関空→香港は11月からダブル・デイリーとなった。カップラーメン用のお湯は1杯400円。従業員であるガイドには、お客様に「搭乗前にトイレに行けばぐっすり眠られますよ」と提案するように伝えている。

##### ◎米田県議

- ・コシヒカリの評判はどうか。

##### ◎袁社長

- ・評判は良い。苺・桃も人気。日本の農産物輸出先の25%は香港行きと聞いている。

##### ◎江口副会頭

- ・石川県にはルビーロマンもある。

##### ◎吉田県議

- ・訪日される客層は。



◎末廣スーパーバイザー

- ・若者から高齢者まで様々。夏休みは20代やファミリーが中心。今の時期は高齢者が多い。

◎袁社長

- ・個人客の年齢層は。

◎濱木マネージャー

- ・20～30代が中心。

◎梅田市議

- ・Wi-Fiは。

◎濱木マネージャー

- ・個人客はホテルのWi-Fiの有無をウェブサイトで確認。Wi-Fiのない所が多い場合は、空港でWi-Fiをレンタルする。

◎袁社長

- ・その意味で、部屋にWi-Fiの少ない旅館より、シティホテルが選ばれる傾向にある。

◎大口県議

- ・カーナビの言語は。

◎濱木マネージャー

- ・画面は日本語、音声は4カ国語。

◎袁社長

- ・香港の人は漢字を読めるので、日本語表記が良い。

◎北村県議（副団長）

- ・1年半後に北陸新幹線が金沢まで開業する。

◎袁社長

- ・鬼太郎列車など面白列車は人気がある。



当日の新聞広告を紹介する袁社長

平成25年10月31日(木)

1 キャセイ・パシフィック航空

(時 間) 10:00～10:50

(相手方) ヴィンセント・ユー 路線計画マネージャー  
サイモン・チウ 事業計画マネージャー

(内 容)

◎福村団長

- ・御社傘下のドラゴン航空には20年前に何度も足を運んだ。当時、定期便が就航する直前までいったが実現せず残念だった。
- ・27日からタイを訪問し、昨日、香港入りした。石川県には東南アジアからの訪問者が多い。兼六園の観光客数で見ると、タイからの訪問者は2012年が前年比2.7倍、2013年が前年比1.8倍。香港からは今年1万2千人が訪問しており、既に2012年を上回っている。
- ・小松空港は日本の中央に位置し、地理的に恵まれており、日本海側最大の空港である。路線は、国内線は全国6路線、羽田便は毎日12便を運航している。国際線はソウル便、上海便、台北便の3路線。地方空港では珍しくカーゴルックス航空の貨物便が運航している。
- ・中部空港や関西空港から石川県に送客されているが、小松空港に直航便を運航して頂けると企業進出もあり、双方にとってメリットがあると思う。
- ・貴殿の石川県来県の経験は。

◎ユー・マネージャー

- ・ない。

◎福村団長

- ・東京、大阪とは違う。小都市だが、昔ながらの良さが残っている。是非一度お越し頂きたい。本日は感謝申し上げます。我々の情熱を汲取り頂き、ご検討頂きたい。

◎ユー・マネージャー

- ・キャセイ・パシフィック航空は、2006年にドラゴン航空を合併し8年が経つ。
- ・キャセイ・パシフィック航空は150機、ドラゴン航空は40機の機材を所有し、両社で羽田、成田、関空、札幌、福岡、名古屋に運航している。
- ・小松空港に就航する場合、片道3時間半で、途中の整備を入れると往復で9時間かかる。新路線というリスクがあるので、機材は小さい方が良い。
- ・最近、石川をPRしていることは知っているが、知名度に不安があるので、知名度向上に向けて旅行会社にPRをして欲しい。

◎福村団長

- ・御社は日本海側への就航が全くない。日本海側に就航すれば双方にメリットがある。
- ・香港からの訪日客は、最初は東京—大阪間のゴールデンルート、次回は九州など比較的香港に近い南の地域を旅行するが、今後は、降雪地域に関心が向き、旅行商品でも石川県の人気が出てきていると聞いている。
- ・日本でも、香港やマカオは是非一度は訪問したい場所であり、余り心配しなくてもお客はあるのではないかと思う。
- ・一日も早く定期便が実現できるようご尽力願いたい。



ユー路線計画マネージャー（右）とチウ事業計画マネージャー（左）

## 2 香港航空

(時 間) 14:30～15:10

(相手方) 汪彦錕 商務副総監

郑方祥 路線計画副総経理

アイビー・モック 商務部チャーター営業アシスタント・マネージャー

(内 容)

### ◎福村団長

- ・27日からタイを訪問し、昨日、香港入りした。新規路線としてタイや香港を考えており、それが今回の訪問の理由である。小松空港は日本の中央に位置し、日本海側最大の空港である。国内線は6路線、羽田便は毎日12便を運航している。国際線は、ソウル便、上海便、台北便の3路線。台北便は、週2便で就航したが、現在は毎日運航している。

### ◎汪副総監

- ・台北便の航空会社は。

### ◎福村団長

- ・エバー航空である。香港の旅行者は、ゴールデンルートは一通り訪問し、次が九州で、その次が雪や温泉の地域が狙いとのことだ。小松空港があてはまる。香港の旅行会社では、日本行を希望する旅行者の申込を断らなければならない程、訪日熱は高い状況とのことだ。定期便なら、キャセイ・パシフィック航空か、香港航空しかないと思い訪問した。

### ◎庄司次長

- ・小松空港の滑走路長は2,700mであり、就航率も高い極めて安定した空港である。着陸料も大都市の空港に比べて安い。
- ・ネットワークは国内線、国際線共に充実しており、国際線3路線の充実と共に国際線利用者も増加している。
- ・施設面では、待合室や免税売店の面積も拡充した。
- ・2011年の東日本大震災を除き、順調に香港から北陸への訪問者は増えている。定期路線化により人の結び付きが高まると考える。

### ◎汪副総監

- ・訪問を歓迎する。香港航空は若い会社でチャーターを運航している。日本市場は香港人にとって人気。東京や大阪は人気があるが、中部地方の情報は少ない。石川には市場の可能性を感じている。調査は路線担当が行うが、情報を提供頂ければ、チャーターを組みやすくなる。

### ◎郑副総経理

- ・待合室が拡大したとのことだが、2機を同時に受け入れられるか。

### ◎庄司次長

- ・現状2機の同時駐機はないが、将来的にはそれがあれば手直しする。

◎郑副総経理

- ・沖縄で問題となっている。

◎汪副総監

- ・チャーター運航でも良いか。

◎福村団長

- ・チャーター便はよく運航されており、定期便を希望している。

◎郑副総経理

- ・鹿児島にチャーター便を運航して3～4年が経過し、路線が安定した。新路線は開設リスクがある。

◎庄司次長

- ・香港航空と香港エクスプレスの役割分担は。

◎汪副総監

- ・香港エクスプレスのLCC化により、チャーター運航は香港航空が行う。

◎新谷県議

- ・ドラゴンルートをご存知か。

◎汪副総監

- ・聞いたことがない。

◎福村団長

- ・綿密に連絡を取り合い、互いに勉強させて頂くことで、定期便化に繋がっていければと思う。



懇談する汪副総監（右）と郑副総経理（左）

## 石川県議会派遣 タイ・香港訪問 報告

石川県議会議員 紐野 義昭

平成25年10月27日から11月1日まで6日間、小松空港国際化推進石川県議会議員連盟（福村章会長）が中心の訪問団の一員としてタイ・香港を同時に訪れる機会を得た。

今回は副団長を仰せつかったが、今回の主な目的は現地の航空会社や旅行代理店幹部等と意見交換を行うことにより、小松空港の更なる国際化を目指すべくタイや香港との間でのチャーター及び定期便などの直行便就航への働きかけを行なうものであった。

同時に、在タイの日本やタイ国政府関係の観光担当部門を訪問、意見交換を行うことにより、現在のタイの国情やタイ国民が今、特に観光面において日本の国に対して、どのようなことを感じ、望んでいるのかを学ぶことができた。

10月28日（月）

日本政府観光局（JNTO）バンコク事務所

伊東所長、沖津次長さらに金沢市出身の福田和弘国際交流基金バンコク日本文化センター所長から説明を受け、意見交換

冒頭に、最近では日本向け航空券の予約がしにくい状況との説明などがあったが、福村団長から石川の観光PRについては強く支援を求めた。伊東所長からは今年度の日本への渡航者の数は33万人の目標に対し、最終的には40万人に届く見通しとの話があったように、やはり現在の状況のもと、日本への誘客については絶好のチャンスがきていると感じた。最後に福田氏から「多くのタイ人が金沢に行くよう力になりたい」との話があった。なお福田氏は私の中学時代のクラスメートであり、久しぶりの再会で大変なつかしく感じたが、日本の国のためにはもちろんのこと石川県のためにも今後とも頑張っていたきたい。

ビジネス・エア

アヌチャー・ティーワリー最高責任者他2名の方から説明を受けたのち意見交換

国際線を増やすために石川の熱意ある行動を示すため福村団長を始め団員からは相手側出席者に、熱心に現状説明とチャーター及び定期便就航の要請を行った。会社側は、こちらの思いについて理解を示すとともに、今後、検討をさらに進めていきたいとのコメントがあった。

10月29日（火）

### アジア・アトランティック航空

#### グラハム・ロックウッド執行役員、弘農日本営業チームマネージャーらと意見交換

福村団長から観光ビザの免除などの理由により、最近では石川県内でもタイ人観光客が非常に増えていることなど石川の熱意を示す挨拶、説明から始まり具体的に直行便就航のお願いを行った。航空会社からはここしばらくの間、タイでは日本の人気は高く、来年には複数回の運行を目指したい旨の考えが示された。また、現在この会社からは日本へは乗り入れはないが、それでも小松基地との調整などの協力要請があり、今後、連携を図っていきたいとの話があった。また、同席した中村 H. I. S ツアーズ統括支店長らからは、こちらからの「チャーター便での実績を積み、将来の定期便化につなげたい」との要請に対して、来年度、手始めに4月にH I Sにより複数回計画してみたいとの発言があった。

### H I S バンコク支店

#### 中村 H. I. S ツアーズ統括支店長らからショップ窓口についての状況説明を受けた

日本人向けの支店であり、日本へのツアー広告が壁いっぱいに掲示してあったが、電話は鳴りっぱなしであり、とても活気を感じた。中村氏からは日本商品は右肩上がりの売れ行きであり、今後、金沢へのツアーにも期待しているし、そのためにもこの店でも社員をこれから増やさねばならないなどの話があった。併せて、最近では旅行ローンをタイでも利用され始めていると興味深い説明があった。

### 現地進出企業（8番らーめんシーロム・コンプレックス店）

#### 清治ハチバントレーディング（タイランド）社長と店舗視察と懇談

最近のタイの外食事情などをお聞きすると同時に、レストラン街を視察またラーメンの試食も行った。ラーメンの味は日本とあまり変わらず満足のものであった。聞くとところによると、最近ではバンコクでも外食産業がとても広がってきており、近隣ショップには吉野家など日本でもおなじみのレストランもあった。

### タイ国政府観光庁

#### ポーンサトーン・ゲーッサムリ アジア・南太平洋地区担当副総裁らと懇談

福村団長からの現状説明とご協力をいただきたい旨の挨拶に対して「小松ーバンコク間に直行便が必要との思いは同じであり、チャーター便を重ねながら直行便につなげてほしい」と副総裁が述べていた。なお、訪日観光ビザが免除された7月以降、日本自治体の「バンコク詣で」が急増しているそうであり、他県の取組のスピードアップに負けないほど対応が今後、石川県においても必要になる。

### タイ旅行業協会（TTAA）

#### スティポン・ファンピホップ会長以下10名の方々と懇談



小松空港の入管体制についての質問と同時に「石川の魅力を伝えるためタイのメディアや旅行会社を招待するツアーを企画してほしい」との内容での執拗なほどの要請があった。現在の円安基調の中、今まさに日本ブームであるとの印象を受けたが、条件がそろえば必ず観光客を送ることができるかと協会からは力強い返答があった。いずれにしても、タイをめぐる、今後、県間、都市間競争は一層激しくなるであろう。

10月30日（水）

#### EG Lツアーズ

袁文英社長をはじめ幹部の方と懇談（多くの社員が一行に並んで出迎え、歓迎を受けた）

福村団長から、まず、改めて石川の現状を説明して、「ぜひ石川を中心にしたツアーを組んでほしい」と要請し、袁社長へ引き続きの支援協力を行った。袁社長からは、「石川の知名度は次第に香港でも上がっており、石川向けの商品をさらに販売していく」また「格安航空が小松空港乗り入れに意欲がある」との情報の説明もあり、その後、団員との意見交換が行われた。訪問団側からは石川の観光資源などの説明に対し、袁社長から石川の食材は素晴らしくさらにPRするべきであり、北陸の冬の味覚を楽しむ「グルメツアー」を企画するために、来月、スタッフを石川に派遣、今後に向けて調査を行うとの発表があった。また福村団長からは袁社長にも石川県に再度来県していただきとの要請を行った。今回も袁社長のバイタリティあふれる姿勢とサービス精神には感心させられた。いずれにしろ、今日までの袁社長との度重なる交流が功を奏しこのような忌憚のない意見交換ができたものと感じた。これからも本県への送客、また、チャーター及び定期便の運航を成功に導くためにも協力を期待したい。

10月31日（木）

#### キャセイ・パシフィック航空

路線計画マネージャーと事業計画マネージャーと意見交換

福村団長からは、これまで行ってきた国際線就航を増やすための石川の熱意ある姿勢を説明したのをはじめ、団員からは石川県でも香港からのお客さんが最近とみに増加していること、兼六園や白山、温泉、雪の魅力、更には九谷焼をはじめとする伝統工芸品等々本県観光地等の積極的な説明を行うなどのPRを行った。路線担当者からは今後、観光面での需要は見込めると見通しを示し、小松―香港便の定期便開設へ協議を始めたいとの言及があった。具体的に2015年ダイヤから週2～3便の方向が示されたが、全く「想定外」のことであり皆さんが驚いた様子であった。このことは、台湾小松便がデイリー化後もその勢いが衰えない実績が呼び水になっていると思われ、また、かつてドラゴン航空が小松空港へのチャーター便運航



を模索していた経緯もあり、これまでの度重なる訪問と築かれている人脈、出会いを大切にしてきたことが理解にもつながっているものと感じた。

### 香港航空

汪 エンクン 商務副總監の他に彦マカオ航空のヤン副社長をはじめ、EGLツアーズマカオ支店を含む旅行代理店6社のマネージャーが同席の下での意見交換

福村団長からは、小松空港の現状説明と石川県のあらゆる観光的魅力の説明があったのち、これまで以上に交流を深め、ゆくゆくはチャーター便を運航していただきたいとお願いの言葉があった。ワン営業副部長からは、香港でも日本は人気のある旅行先の一つであり、「需要があれば小松と香港の間でも、ぜひ就航したい」など積極的な発言が続き今後に期待が膨らんだ。

### その他

仁川空港ではハブラウンジでの利用状況を実際に経験することができた。また、タイでは石川県人会との交流会を行い、現地で頑張っておられる石川県の企業関係者と懇談を行い、その暮らしぶりやタイへの印象などをお聞きすることができた。また、翌日の団員交流会にも石川県とゆかりのある方々にご出席いただき忌憚のない情報交換を行なうことができた。さらに、在タイ日本国大使館への表敬訪問では、岩間経済部公使、濱本一等書記官らと懇談する機会があり、タイ国内での日本への国民感情や国内の政治、経済、治安情勢などについて説明を受けた。さらに、香港ではsky100ビルから香港の街並みを見学し、また実質的な最終日の夜には有名な香港の夜景を見ながら団員間で、今回の視察を受けて活発な意見交換も行うことができとても有意義であった。

### まとめ

新規定期路線の開拓に一番重要なことはまず各方面とできるだけ多くの人脈作りを誠実に行ない続けることであり、そのことは香港のEGLの袁社長との関係を見ても明らか。そのうえで、石川県の観光地としての魅力を多くの人に知ってもらう努力をしなければならない。そのためには、今後も石川県からできるだけ多くの関係者が訪問、PRしていく一方でタイや香港からも多くの旅行関係者に来てもらう必要がある。同時に、これからも積極的に双方向チャーター便を積み重ねていくことが、定期便就航に結びつけるためにとても重要な視点である。一日も早い新規定期路線の開拓に向けて関係者が一丸となつての活動が進んでいくことを期待してやまない。なお、今回の視察の前後に他の行政機関や観光業界の関係者もバンコク市内を回り、石川の魅力を売り込んでいたとのことであるが、新聞が書くように「波状攻撃」と言うと聞こえはいいが、多少連携が不足していたのが心残りであり、今後は小松空港関係者のみならず県内関係者が一致協力して連携、情報交換のもと取

り組んでいく体制構築が大切なことであり、県当局には一層の汗をかいていただきたい。

## 石川県議会派遣 タイ・香港訪問 報告

石川県議会議員 北村 繁盛

平成25年10月27日から11月1日までの5泊6日の日程で、県議会派遣の一員として、タイと香港を訪問してきた。今回の訪問目的は、近年、石川県には、タイや香港からの観光客が急増しており、また石川県の企業も多く進出している状況にある中、タイ・香港を訪れ、航空会社や旅行代理店、観光関係機関等に対し、チャーター便や定期便就航を働きかけるものであり、あわせて石川県や北陸の魅力もアピールしようというものである。

まず、タイで最初に訪問した日本政府観光局バンコク事務所では、タイから訪日する観光客の現状について説明を聴取した。現在、タイでは、訪日旅行が非常にブームになっているという。当然、東京―大阪コースのゴールデンルートが人気であるが、複数回訪日する者も増えており、北海道、長野、飛騨高山、白川郷などの地方への訪問も人気が出ていること、また、タイ人は神社仏閣、桜と紅葉の名所、雪、雄大な自然景観などを好む傾向があるとお聞きした。

タイでは、「石川」や「金沢」といった知名度はまだまだ低いようだが、本県には、十分、タイ人に好まれる魅力が揃っており、逆に言えば、今後、効果的な宣伝等ができれば、さらに多くの集客を期待できるということが確認できた。

その後、実際にチャーター便を運航としているビジネス・エア、アジア・アトランティック航空、そしてアジア・アトランティック航空の親会社であるH. I. S. バンコク支社に訪問し、チャーター便の要請を行った。ここでも、「タイでの日本人気は高い」、「日本行きのチャーター便を企画すれば、すぐに満席になるだろう」という意見を聞くことができ、それぞれの航空会社から、来年度中に複数回の双方向チャーターを運航させたいとの前向きな返答を得ることができた。今後、実務的な調整を行い、着実に実現されることを切に願う。

また、このほかタイでは、日本大使館、タイ国政府観光庁、タイ旅行業協会などの関係機関へも訪問し、石川県と小松空港の魅力を伝えるべく、意見交換を行ってきた。我々と同じように、他自治体からも多く要請活動が現地で行われている状況をお聞きし、危機感を持って本県をPRしていく必要があることを感じた。特に、高山や立山アルペンルートが有名であることから、それらを利用して上手く石川まで呼び込む方策を研究することも有効だと感じた。

行程4日目には、香港へ移動し、最初にEGLツアーズを訪問した。EGLツアーズは個人旅行者を対象とした香港大手の旅行会社であり、その董事総経理である袁文英さんと香港旅行者の動向や石川県への送客について意見交換を行った。「香港では徐々に石川の知名度が上がってきている」、「香港で日本食が人気があるので、石川の食をアピールした旅行商品はどうか」などの有益なお話をいただき、今後の方策のヒントを多く得ることができた。

また、袁さんとはこれまで何度も会っているが、今回も、本社ビルの入り口には訪問者一人ひとりの名前が書かれた「ウェルカムボード」を持った社員による出迎え、また当日の新聞折り込みに我々の訪問団の名前が入った広告を入れるという熱烈的な歓迎を受けた。そして、帰る際もバスが見えなくなるまで手を振って見送られる袁さんの客人へのもてなしと心遣いには、毎回感服する。

そして、香港での2日目、2つの航空会社を訪問し、小松—香港便に関する懇談を持った。

まず、キャセイ・パシフィック航空では、当方から小松空港の優位性や本県及び北陸地域の観光地の魅力を説明した後、チャーター便の就航を要請したところ、応対されたユー路線計画マネージャーからは、定期便の就航を前提で交渉に入りたいと、予想外の提案があった。「機材は150人乗りで、週2、3便でどうか」、「就航時間は香港を午前2時発、小松を午前8時発は可能か」など、相手の本気度を感じさせる非常に具体的な内容の話し合いとなった。

また、その後、香港航空に訪問した際にも、「今後、需要があればチャーター便を飛ばしたい思いはある」と、こちらも非常に前向きな返答もいただいた。

この両国の訪問を通じ、改めて、日本人気、日本への追い風を感じる訪問となったわけだが、まず、タイについては、今後のチャーター便の積み重ねが大変重要であり、双方向の需要の確保が大きな課題となってくる。タイにおける石川の認知度向上の取組はもちろんのこと、石川県側からの送客についても、しっかりと対策を立てて実行していただきたい。

そして、香港では、今回、定期便就航の提案を受けたわけだが、これは長年継続して要請活動を行ってきた賜物であると言えよう。すぐに結果は出なくとも1つ1つの積み重ねが将来大きな成果に繋がるということを改めて認識することとなり、今後とも、関係者が一丸となり、要請活動を続けることが重要で、築き上げられた人脈や関係性を大切にして私も取り組んでいきたいと思う。

## 石川県議会派遣 タイ・香港訪問 報告

石川県議会議員 米田 昭夫

1年半後となる北陸新幹線金沢開業を迎え、小松空港国内線の要である小松一羽田便が減便することは避けられない情勢である。今回は石川県議会派遣団と小松空港国際化推進石川県議会議員連盟とが連携して訪問団を結成し、タイ、香港と小松空港との国際線定期便実現に向けての足がかりとなるべく、現地航空会社及び旅行会社に向けて、セールスを展開していく内容となっている。

今回は小松一台北便が昨年度のデイリー化後でも搭乗率79%という高い搭乗率を保有しているという実績があり、強力な後押しになるのではないかと期待する。

日程としては移動日を含め5泊6日であり、移動日の2日間を除く3泊4日で航空会社4社、旅行会社2社、観光関係の官公庁3カ所、その他2カ所の計11カ所を訪問する大変ハードな内容となっているが、小松空港国際化及び新たな海外観光客誘客の一助になればとの思いで参加させていただいた。

以下、特に印象に残ったところを中心に報告させていただくこととする。

### タイ

#### ●日本政府観光局バンコク事務所

日本政府観光局バンコク事務所において、タイの現状についてお聞きした。

- ・タイ人の訪日熱は高く、タイ人の訪日数は2012年が史上最多だったが、2013年は9月までで昨年を超えている。
- ・ローンによる旅行商品があり、月収3～5万バーツ（日本円で約94,800円～158,000円）の中間層でも購入が可能である。
- ・タイには相続税や固定資産税がなく、富裕層はますます富める傾向にある。
- ・訪日時期は、タイは2学期制のため、3、4月と10月が多い。

現状報告は以上のとおりであり、今後の視察を進めるうえで有意義な情報をいただいた。

雪のないタイの方々にとって、本県にお越しいただく最大の魅力は、本県の雪景色と冬の味覚であるが、訪日数が増えるのが3月、4月、10月となれば、本県には雪がない時期である。しかしながら、兼六園の桜や那谷寺の紅葉など、この時期でないと見ることができない本県の魅力は数多くあり、これらのPR強化に取り組むべきであると感じた。

#### ●タイ旅行業協会

タイ旅行業協会においても訪日熱が高く、特に北陸を通るルートは人気があり、訪日数の約10%~15%（5万~7.5万人）が北陸を訪問しているとのことであった。現在、北陸ルートに人気があるのは、20数年前に岐阜県の招待でタイ旅行業協会にファミ・トリップ（観光地などの誘客促進のため、旅行事業者を対象に現地視察をしてもらうツアー）が実施された後、数社が協力して雪壁などのアルペンルートを確立したことが大きな要因ということである。となれば、本県においても、まずはタイの旅行業協会の方々に石川県の魅力を知っていただき、強力な後押しを得る必要がある。協会の方々も来県に意欲的な様子であり、間髪入れずに福村団長から「それなら招待状を出す」とお約束し、懇談を終えた。

タイでは訪問先の旅行会社でも航空会社でも、いずれもタイ人の訪日熱は大変熱く、チャーター便を飛ばしてもタイからの訪日客は自信を持って集められると断言されていた。双方向チャーター便となれば、あとは日本側からの集客が課題になるが、タイは海外旅行先としては人気がある国ではあることから、ゴールデンウィークなど日本側が集客しやすい時期にチャーター便で実績を作り、いずれは国際定期便就航につなげていけるのではないかと期待する。

## 香 港

### ●EGLツアーズ

袁社長から富裕層を対象としたグルメツアーの企画に向け、スタッフ2名が研修のため石川県に行く計画があるほか、香港では海外からの果物の持ち込みが可能ということであり、また日本の農産物輸出先の少なくない数が香港行きであるという説明があった。そこで少し調べてみると、農林水産省が出している「品目別輸出実績（農産物）」によると、2003年の日本の輸出農産物全体のうち、香港に対する輸出高は第3位で12.9%（252億円）であったが、2012年には第2位となり17.1%（458億円）にまで上昇しているというデータであった。香港は日本の農産物に関心が高い国であり、特に富裕層・中間層の出現によって日本産の高級食材や日本食に対する需要が大きく伸びているようである。定期便実現による香港からの訪県数増が、ひいては本県農業の発展に資することを期待するものである。

### ●キャセイ・パシフィック航空

思いがけずキャセイ・パシフィック航空から定期便実現に向けた非常に具体的な提案があり、新聞報道でも特集記事が組まれるなど大きな話題となったところである。今回は小松一台北便が搭乗率79%という実績を持っての訪問であるため、何らかの足がかりを得られればと考えていたが、いきなりの定期便就航の話であり、これには視察団一同大変驚いたところである。

しかしながら、約20年前に定期便就航目前で破談となっている苦い経験もあり、まだまだ安心ができるところまで来ているわけではない。県執行部には就航実現に向け、ぬかりのないよう進めていただき、県議会としても継続した働きかけを行い、同じ轍を踏まぬよう尽力していきたい。

#### 最後に

タイ及び香港の双方の行く先々から訪問団に要望があったのが、無料のW i F i 環境の整備であった。タイの訪日客に限ったことではないが、海外からの観光客が日本で分からないことなどを調べるために、頼りにするのは自国語で調べられるインターネット環境である。

日本は「治安がよい」、「トイレがきれい」と海外の方から高い評価をいただいている。これらに加え、これからは無料のW i F i 環境の提供も重要な「おもてなし」の一つになってくるのではないかと思う。

## 石川県議会派遣 タイ・香港訪問 報告

石川県議会議員 吉田 修

北陸新幹線金沢開業が約1年後に迫り、小松―羽田便の減便も懸念される中、今後とも小松空港が日本海側の拠点空港としての役割を果たしていくためには、国際線の充実が大変重要となってくる。

現在、小松空港では、上海、ソウル、台北の3路線の国際定期便を運航しているが、国際線利用者数は、順調に増加しており、昨年度は対前年度比126%を記録した。特に、平成24年12月に国際線初のデイリー運航が実現した台北便が増便後も80%近い搭乗率を維持しており、今年度も過去最高の利用者数となる勢いである。

さらに、平成25年8月には、国際線利用者が無料で利用できる第2国際線駐車場の新設や複数の国際線の出入国が同時可能となるボーディング・ブリッジの増設、利用者へのサービス向上のための国際線待合室や免税店の拡充など、ハード面の環境整備も充実させたところである。

国際既存路線が順調な中、さらなる国際線の拡充策として、新たな路線開設先を探るとすれば、経済発展が進み、親日的といわれる東南アジアの中心であるタイ、そして、長年、継続して就航要請を行っている香港が候補に挙げられる。

現在、日本には、タイや香港からの訪問客が急増しており、日本政府観光局（JNTO）によれば、平成25年の1月から9月までの観光客数が前年1年間の実績をすでに上回っているという。石川県にも、直行便がないにもかかわらず、多くの観光客が入ってきており、兼六園観光客数で見ると、タイからは平成25年1月から9月までに2,942人が訪れ、対前年度比179%、そして、香港は同時期で12,479人が訪れ、対前年度比226%という非常に高い数字となっている。

また、石川県企業による海外進出も進んでおり、タイへは「8番らーめん」をはじめとした27社進出しており、北陸3県を合わせれば83社となる。香港にも8社の県内企業が進出している状況であり、就航が実現されれば観光面の効果だけでなく、北陸企業におけるビジネス面での効果も非常に期待される状況にある。

そんな中、議会派遣の海外視察として、チャーター便の就航要請を目的に両国を



訪問することとなったわけだが、タイの航空会社からは、来年度中に複数回のチャーター便運航をしたい旨、香港の航空会社からは、チャーター便を飛び越え、定期便就航の提案まであり、予想を上回る前向きな回答が次々と得られるという大変成果のある視察となった。

タイでは、平成24年3月に最低賃金が約2倍となる額に改定される程、経済成長が著しく、為替もバツ高の傾向から、海外旅行は一般的に富裕層が行くものから、中間層にまで広がっているという。特に、平成25年7月から、短期滞在の訪日ビザが免除となったことが、さらに追い風となり、訪日ブームとなっており、耳を疑ったが、ローンを組んでまで日本旅行に行こうとする人たちが少なくないという話まで聞いた。

また、香港でも、超高層マンションや新幹線の大型駅舎などが建設されている様子を至る所で目にすることができ、景気が好調であることを実感できた。

このように、訪日熱が非常に高まっていることが確認できたわけだが、残念ながら、「石川」という認知度が必ずしも高くないということも明らかとなった。訪問した旅行会社等からは「訪日旅行需要が高まっている今こそ、石川県がさらなる認知度向上を図り誘客に力を入れる必要がある」との意見も出され、今後、本県による誘客強化策が重要な課題となってくる。

昨年末、「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されるという明るい話題があった。日本への関心が高まっているこの機を上手く生かし、海外に石川の食、そして伝統的なまち並みや雪景色、温泉といった本県の観光魅力をPRし、日本国内の厳しい地域間競争においてさらなる奮闘を期待するものである。

## 石川県議会派遣 タイ・香港訪問 報告

石川県議会議員 新谷 博範

石川県議会海外視察におけるタイ・香港海外視察は、次の2点に於いて非常に有意義かつ成果を見出せたものであった。この海外視察は、目的が小松空港活性化議連と連携して行われる事から海外航空会社定期便誘致という至極単純明快なものであった事がこの結果に大きく反映している。

第一に、「議会セールス」と言う明確な海外視察目的を確立した事が大きい。石川県は、北陸新幹線が来年に完成する事から、小松空港の今後のあり方に関し大きな責任と展開方針を急ぎ作成する転換期を迎えている。行政当局も当然であるが、議会としてどのような努力をするのか問われている中で、福村団長をはじめとする今回の視察団は、石川県の国際空港をタイや香港の航空会社、旅行会社に存在から理解していただき、その上で、市場価値を訴え、まずは来ていただく、そんな中からの日程であった。

議会セールス、つまりは、議会が石川県の素晴らしさを説明し、観光立県の端緒を開く先兵となる。その目的の為にタイ国における懇談会は、現実に即した極めて実務的なものにまで言及しあえる内容であった。その中で特にタイ旅行業協会は、明確な便宜供与、環境整備要求と実現プロセスを過去の他県実例を踏まえて提案してきた事には、当たり前と言えれば当たり前であるが、世界標準のビジネス慣行を改めて認識した。

また、香港のキャセイ・パシフィック航空との懇談では、過去の議会セールスの積み上げにおける成果が明確に出た。今までの交渉経過を踏まえ、就航するのかしないのか、するならばいつからするのか、そのためには現状の空港にどのような問題があるのか、すでに懇談の域を超えた現実的な就航交渉であった事は、先人から積み重ねた努力に感謝するのみである。

第二に、「国際交流の継続性」による信頼関係の醸成である。海外視察は、様々な目的と意義を持つものであるが、香港を継続的に訪問することにより、訪問先が石川県を明確に認識し、その訪問意義を理解している事。国際交流の継続が国境を越えた人間同士の信頼関係にすでに変化している事である。この信頼関係が観光や互いの文化理解並びに国際関係の小さな礎になっている事を強く感じた。今後とも石川県議会が海外視察を計画実行するが、継続的な訪問が力になる事、観光やビジネスの発端になる可能性が高くなる事を再認識しなければならない。又、小松空港乗り入れ国際便を必ず経由して、その乗り入れ航空会社を使うこと。当たり前のこと

を組み込んだ海外視察が必要である。視察費用に関しては、まだ改善の余地がある  
と考える。現地通訳や添乗員のあり方などなど。加えて、観光なしというのは理解  
できるが、自由時間の確保は、視察参加者にも必要である。時間が全てに於いて、  
厳しい日程を作ることは大事であるが、参加者の年齢的、体力的なばらつきをもう  
少し考慮しないといけないと考える。しかしながら、今回の視察が香港定期便の確  
約につながった事は大変素晴らしい成果であった。

## 石川県議会派遣 タイ・香港訪問 報告

石川県議会議員 大口 英夫

本県に、タイと香港から観光客を増やすことと、小松空港への直行便の就航を目的として、私たちはタイと香港の旅行関係者や航空会社、政府等関係機関等を訪問して、懇談と要請活動を行ってきました。

### 1日目（10月26日）

#### 1 日本政府観光局（JNTO）バンコク事務所（タイ）

面会者 伊東和宏所長 他

- ・7月に日本訪問はビザが必要なくなり、今後益々と観光目的の訪問者が増えるとの見通しであり、日本にとってタイは観光客誘致にとって重要な国であるとのことでした。
- ・同事務所には、日本の情報を発信する機能を置いてあり、日本訪問に興味がある人たちが訪れているとのことでもあります。

#### 2 ビジネス・エア（タイ）

面会者 アヌーチャ・ティワリ最高経営責任者 他

- ・新規のLCCの小さい規模の航空会社でありました。
- ・小松空港へチャーター便を企画することに大変積極的であり、直ぐに就航の月まで決めようとの提案がありました。

#### 3 タイ王国日本国大使館（タイ）

面会者 岩間公典経済公使 他

- ・タイと日本の関係について懇談しました。

### 2日目（10月29日）

#### 1 アジア・トランティック航空とHISバンコク支店（タイ）

面会者 グラハム・ロックウッド執行役員

大門 徹社長補佐 他

- ・HISは、アセアンにおいて積極的に営業展開をしており、バンコク支店は日本人旅行者がアセアン各地へ渡航する為の重要な拠点であります。また、航空会社アジア・トランティックも所有しており、今後のアセアンの航空自由化を睨んでいます。

## 2 ハチバン (タイ)

面会者 清治 洋 ハチバントレーディング社長

- ・昼食を兼ねて店舗を訪問し、清治社長と懇談しました。同社はタイにおいて積極的に店舗展開をしており、国民は、ハチバンはタイの企業であると思っているほど受け入れられています。
- ・今後、店舗において石川県のポスター等を張るなどして、積極的に宣伝に協力してくれるとのことでした。

## 3 タイ国政府観光庁 (タイ)

面会者 ポーンサトーン・ゲーッサムリ アジア南太平洋地区担当副総裁  
他

- ・タイと日本の関係について懇談しました。
- ・タイの人たちは、花や鉢、自然の植物を大変好むと聞きましたが、会場に置かれていた鉢の植物の多さからもそのことがうかがわれました。

## 4 タイ旅行業協会 (タイ)

面会者 スティポン・ファンピポップ会長 他

- ・石川県からの訪問者は初めてとのことでした。富山県知事は数回の訪問、高山市は15年前、仙台市は10年前から同協会に対して積極的に営業を行ってきたそうです。
- ・石川県への視察の申し入れがあり、福村章団長が直ぐに招待を約束しました。
- ・タイ人旅行者の旅行行程の一つとして、中部国際空港に入り、名古屋の日泰寺を訪問し、高山市、白川村を訪問するコースが紹介されました。いわゆるドラゴン・ルートであり、今後、石川県まで誘客できる定番となるコースの可能性を見出すことができました。
- ・同協会からは、チャーター便の企画に積極的な申し入れがあり、5月ゴールデンウィークが終わった時期が同協会側と石川県側の双方にとって良いのではないかとのことでした。
- ・同協会からは、日本に対しては多くの観光客を送ることができるが、当方からの観光客の数を心配する意見があり、まさしく、今後の大きな課題であります。
- ・タイの人たちは自然や植物が好きであり、桜や紅葉に感動する国民であるとのことでした。

## 3日目 (10月30日)

### 1 EGLツアーズ (香港)

面会者 袁 文英 社長 他

- ・日本専門の旅行社として香港で最大との事です。
- ・袁社長は日本に住んでいたこともあり、日本語が堪能であり、私たちが訪問した時には正面玄関に大勢の社員が並び、各々が私たち一人一人を歓迎する言葉と名前を書いたカードを持ってお出迎えをしていただきました。また、社屋内のモニターにも同様なメッセージが流れ、同日発行されている新聞の同社の広告にも私たち一人一人の名前と歓迎のメッセージを載せてくれるなど大変なおもてなしでした。
- ・袁社長からは、日本各地の自治体からの観光客送致の要請があることや、J R九州の七つ星号の貸し切り企画などの紹介があり、日本の観光地やトレンドについて大変研究していることがうかがわれました。
- ・同社、袁社長は大変重要なパートナーとして関係を大事にする必要があります。

## 2 キャッセイ・パシフィック航空（香港）

面会者 ヴィンセント・ユー 路線計画マネージャー 他

- ・小松空港に運行されているエバー航空の小松・台北便の搭乗率の高さに興味を持っている様子であり、平成27年夏に週三便、LCCのドラゴン航空の定期便を就航する提案がありました。香港を未明に出発し、小松空港には早朝に到着し、その後、折り返すとのことでした。
- ・先方が積極的である理由の一つに、台湾・香港便が、台湾と中国が直行で結ばれるようになってから搭乗率が悪くなっており、その分を補いたいとの考えがあるのではないかとのことです。

## 3 香港航空（香港）

面会者 アイビー・モック 商務部チャーター営業アシスタント・マネージャー 他

- ・小松空港と香港への直行便就航についての要請を行い、懇談しました。

視察を終えて。タイ王国と香港は、観光客誘致の大変有望な市場であることが理解できました。しかし、国内の各自治体が積極的に営業を行っており、石川県が大変出遅れてしまいましたが、今後、積極的に営業活動や交流活動を強く推し進めていく必要性があります。今回の視察で知ることのできました色々な現状や課題について今後も調査研究し、また、面会しました方々との機会を大事にしてこれからの誘客・航空便就航活動に生かしていきたいと考えます。